

石狩産 を訪ねて

食の宝庫・石狩の
農畜産物を
とれのさとへ
お楽しみください！



ユウサン・ファーム
遊佐宏文さん



生まれ育った石狩で就農した遊佐さん。
冬はレタスのほかに茎ブロッコリーやトレビス、
山ワサビ、ケールなどを育てています。

花畔の レタス



とれのさとの直売所出荷者協議会の会長を務める遊佐さん。毎年恒例、3月末のとれのさとのスプリングセールにも、レタスが登場する予定です。ぜひ足をお運びください！

冷え込み厳しく、一面が雪景色となる石狩の冬——そんな中、遊佐ゆうさ宏文ひろふみさんのビニールハウスでは、すくすくと野菜が育っていました。
自衛官を退官し、2015年に夫婦で新規就農した遊佐さん。一年中農業がしたいと、11月〜3月の冬季にもレタスを栽培しています。「雪の中で農業をやるなんて、とみんな思っているんじゃないかな」と笑います。

より手がかかる冬の農作業。しかし、虫が出ないので農薬を使わずに済む、ゆっくり育つので柔らかい葉を収穫できる、などの良さもあるのだとか。
そんな冬のレタスは、すりおろした山ワサビとしょうゆを混ぜたドレッシングをかけると、遊佐さんも箸が止まらなくなるそう。山ワサビも同時期にとれのさとに並ぶので、ぜひセットでお試しを！

手で持つと
ふんわり
したものが
おいしい！

冬でも
晴れるとハウスは
30℃以上に！

苗を植えた後
冬は3、4カ月
で収穫

レタス
memo

特集

多文化共生とは…

文化の違いを認め合い、
さまざまな国の人が一緒に
生活しようとする
考え方のこと

多文化共生って何だろっ？

家族

書き初めに
チャレンジ!

「書き初め、やってみようか？」
それは「コロナ禍以前、UR都市機構
花川中央団地にある第2集会所での
こと。同団地に暮らすベトナム人や中
国人を招いた茶話会で、元教師の住民
が提案しました。

写真はその時の様子。撮影した俣
UR「コミュニティ北海道住まいセン
ター」の松田真喜恵さんは「みんな楽し
そうでした。だから彼女たちが帰国す
ると寂しそうで…それだけ見守って
いただいたのですね」と振り返ります。

高齢化が進む団地——その一方で平
成27年以降、目立つようになったのが
若い外国人の存在です。多くが技能実
習生で、「当初は受け入れ側にもいろ
いろな先入観があったはず」と、松田
さんの上司 武田昌之さんは話します。

「私たちは仕事柄、共生を目指し
ます。しかし、それを住民の方に強制
はできません。それでもこの団地
では多文化共生が進み、全国でも珍
しいほど。全ては意識を変えてくだ
さった住民の皆さんのおかげです」

市内には、現在600人超の外国人
が暮らしています。広報では、市内在
住の外国人や企業、自治会取材しま
した。この特集を通して、多文化共生
とは何かを一緒に考えられたらと思
います。